

2020年度第3回福島競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 二本松特別

二本松（にほんまつ）は、福島県中北部の市。江戸時代には奥州街道の宿駅、丹羽氏の城下町として栄えた。家具製造や酒造が盛ん。また、秋に行われる「二本松の菊人形」と「二本松の提灯祭り」は同市を代表する祭典である。

○ フルーツラインカップ

フルーツラインは、福島県福島市の西側に広がる吾妻連峰の麓を走る道路の愛称。全長約14km。沿道は果物の生産が盛んで、サクランボ・桃・梨・ブドウ・リンゴと様々な種類の果物が収穫される。

○ 三陸特別

三陸（さんりく）は、陸前・陸中・陸奥の総称。東北地方北東部の地域を指す。リアス式海岸で有名な三陸海岸には、気仙沼・宮古・釜石などの港がある。平成25年5月には、東日本大震災により被災した同地域の復興に貢献するために、三陸復興国立公園が創設された。

<第2日>

○ 磐梯山特別

磐梯山（ばんだいさん）は、福島県中北部、猪苗代湖の北にそびえる成層火山。標高1,816m。会津富士や大磐梯などとも呼ばれ、日本百名山のひとつである。

○ 福島民友カップ（L）

福島民友新聞社は、福島県福島市に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 五色沼特別

五色沼（ごしきぬま）は、磐梯朝日国立公園の裏磐梯高原に散在する小湖沼群の総称。湖水中の成分や日光および水深などの条件で、湖面がコバルトブルー、エメラルドグリーンをはじめとした様々な色彩に変化することから、この名がついた。五色沼一帯には散策路が設けられ、宿泊施設が集まるなど観光地となっている。

<第3日>

○ 飯坂温泉特別

飯坂温泉（いいざかおんせん）は、福島市北部、阿武隈川支流の摺上川（すりかみがわ）沿いにある温泉。泉質は単純温泉。日本武尊が湯に浸かり病を治したという伝説がある。鳴子（なるこ）温泉、秋保（あきう）温泉とともに奥州三名湯のひとつに数えられる。

○ 河北新報杯

河北新報社は、宮城県仙台市に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 土湯温泉特別

土湯温泉（つちゆおんせん）は、福島市西部、荒川の溪谷底にある温泉。開湯は神代の時代まで遡ると言われ、古くから湯治場として栄えてきた。豊富な湯量を湧出し、泉質も多種にわたっている。水芭蕉の里としても知られ、春には約10万株が見頃を迎える仁田沼をはじめ、びつき沼、土湯峠などでも見ることができる。

<第4日>

○ 高湯温泉特別

高湯温泉（たかゆおんせん）は、福島市西部、磐梯吾妻スカイラインの入口に湧く温泉。白布（しらぶ）温泉、蔵王（ぞおう）温泉とともに奥羽三高湯として知られ、温泉街からは福島市街を一望できる。慶長12年（1607）に開湯されたと言われ、9ヶ所の源泉から豊富な湧出量を誇る。硫黄泉で乳白色の湯には様々な効能があり、四季を通して湯治客で賑わう。

○ 奥羽ステークス

奥羽（おうう）は、東北6県の総称。かつては陸奥国と出羽国と呼ばれており、明治以降これらを合わせて奥羽の名が使われるようになった。また、東北地方中央部を南北に走る山脈を指す。

○ 西郷特別

西郷（にしごう）は、福島県南部の西白河郡にある村。村内には旭岳を源流とする阿武隈川が流れ、同川に架かる雪割橋からは、秋になると一面の紅葉を楽しむことができる。

なお、同村にはJRAの場外勝馬投票券発売所であるウインズ新白河がある。

<第5日>

○ 三春駒特別

三春駒（みはるこま）は、福島県三春地方産の馬。洋種の馬が輸入されるまで、南部駒とともに全国に知られた。また、同地方で作られる彩色された木製の馬の郷土玩具。坂上田村麻呂が東征したときに苦戦を救った木馬が元になったと伝えられ、子育ての縁起物として有名。

○ みちのくステークス

みちのくは、旧国名である陸奥の平安時代の呼び名。陸奥は、現在の青森県・岩手県・宮城県・福島県と秋田県の一部にあたる。7世紀に成立し、陸奥で産出される金・馬・毛皮などは珍重された。

○ 相馬特別

相馬（そうま）は、福島県北東部の市。江戸時代は相馬氏の城下町であった。全国的に有名な「相馬野馬追祭」は、国の重要無形民俗文化財に指定されている。

<第6日>

○ 福島2歳ステークス

本競走は、昭和35年に福島競馬での2歳チャンピオン決定戦として創設された競走。34年以前は『3歳特別競走』『3歳優勝競走』などの名称で同様の競走が実施されていた。

○ 農林水産省賞典福島記念（GⅢ）

本競走は、昭和40年に創設された3歳以上馬による重賞競走。第1回から2000m、ハンデキャップ競走で行われている。当初は、夏の福島競馬を代表する競走として実施されていたが、後に秋季に移設され現在に至る。

○ 会津特別

会津（あいづ）は、福島県西部の会津盆地を中心とした地域。崇神天皇の時代に、北陸道を下る大彦命（おおびこのみこと）と東海道を下る建沼河別命（たけぬなかわわけのみこと）の親子がこの地で出会ったという伝説から「相津」の名が付き、後に「会津」へ変化したと考えられている。